
人文社会科学系 外国語教育講座 教授 ロビンズ アントニー

研究分野のキーワード:authentic material, C.A.L.L., digital divide, media, technology

研究紹介

例えば語学やその他の学習する時にどのようなメディアを使っていますか？
語学学習や教育、特にコンピューターアシストラーニング(C.A.L.L.)が私の研究エリアです。

ずっと昔まだ私が高校生だった頃、語学学習といえばラングエッジラボラトリー(LL)が主流でした。毎週のようにそれを使い同じ会話や文章を繰り返し発音練習しました。しかし今では語学学習の考え方が変わりこのLLは過去のものとなり、行動科学主義に基づいたオーディオリンガル法のような語学教育の方法論は批判を受けました。

テクノロジーは絶え間なく進んでいます。リールツウリールのテープレコーダーは1954年に、カセットレコーダーは1963年に、ビデオレコーダーは1970年代に使われ始め、1982年にはCD、1985年にはCD-ROM、そして1996年にはDVDなど、その後も常に進化をとげています。あなた達の高校生時代、また将来大学生として、コンピューター、インターネット、ソーシャルネットワーク、スマートフォンなどは日常生活に欠かせないでしょう。インタラクティブホワイトボードなどをこれらにリンクすることで学習に役立てられるのではないかと思います。

このような方法は教育する側にとっても学習者にとってもとても有効であり、本物に接してそれを教材として使用する事が可能になります。ただし、それには以下のような問題をクリアしなければなりません。

- 1 デジタル格差 テクノロジーにアクセスする機会の格差 国の貧富の差によって科学技術に対する格差はあるでしょう。また科学技術が好きな人と科学技術恐怖症の人でも格差はあるでしょう。
- 2 プライバシー もし語学学習にソーシャルネットワークやビデオ会議などを使う場合は参加者のプライバシーを守り、ハッキングやネット上のいじめなどが起きないように個人情報の保護に十分注意しなければなりません。
- 3 テクノロジーとメディアを状況によってどのように使い分けるか？ 例えば教師が学生をリードする場合と学生同士のグループまたはペアでの学習の場合の違い。また教室での授業と個人学習によって異なる点など。

これらはとても興味深い問題です。あなたはどう思いますか？
これらに関連して私は他にも教師の育成、海外学習プログラムの有効性、各種テストの役割の違いなどについても研究しています。

もし私の授業内容や教室での活動、または発表論文などに興味があれば下記の私の個人ホームページをご覧ください。

<http://www.kokusai.aichi-edu.ac.jp/ar/default.html>